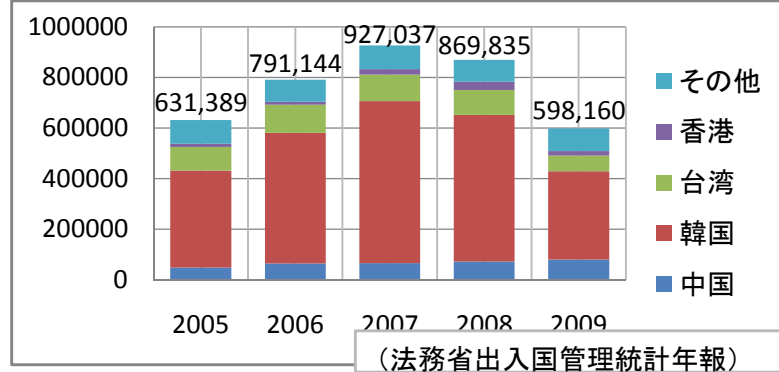


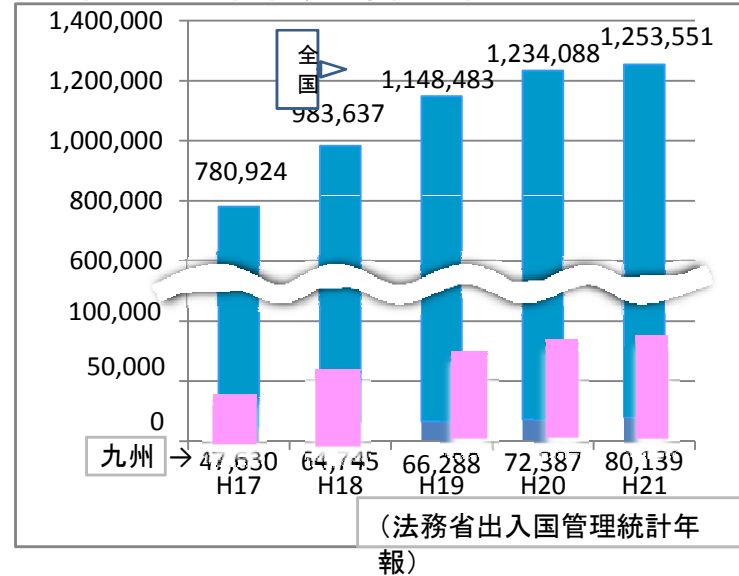
九州観光を取り巻く環境

中国からの入国観光客の増加

(1)国籍別入国外国人人数(九州)

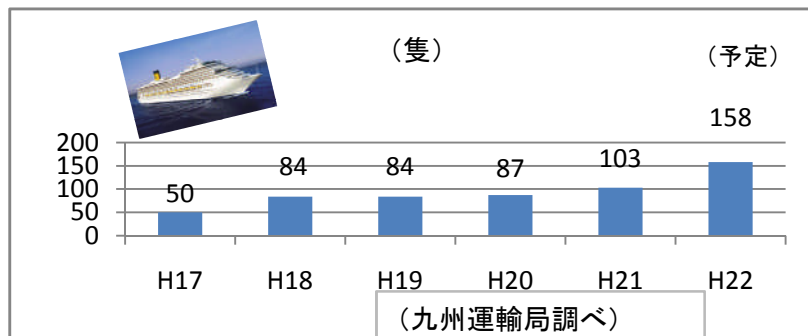


(2)中国からの入国者数の推移(全国及び九州)

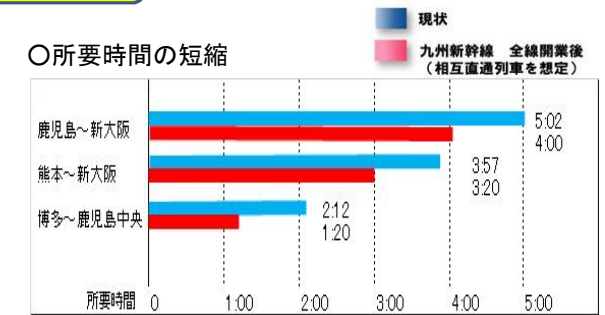
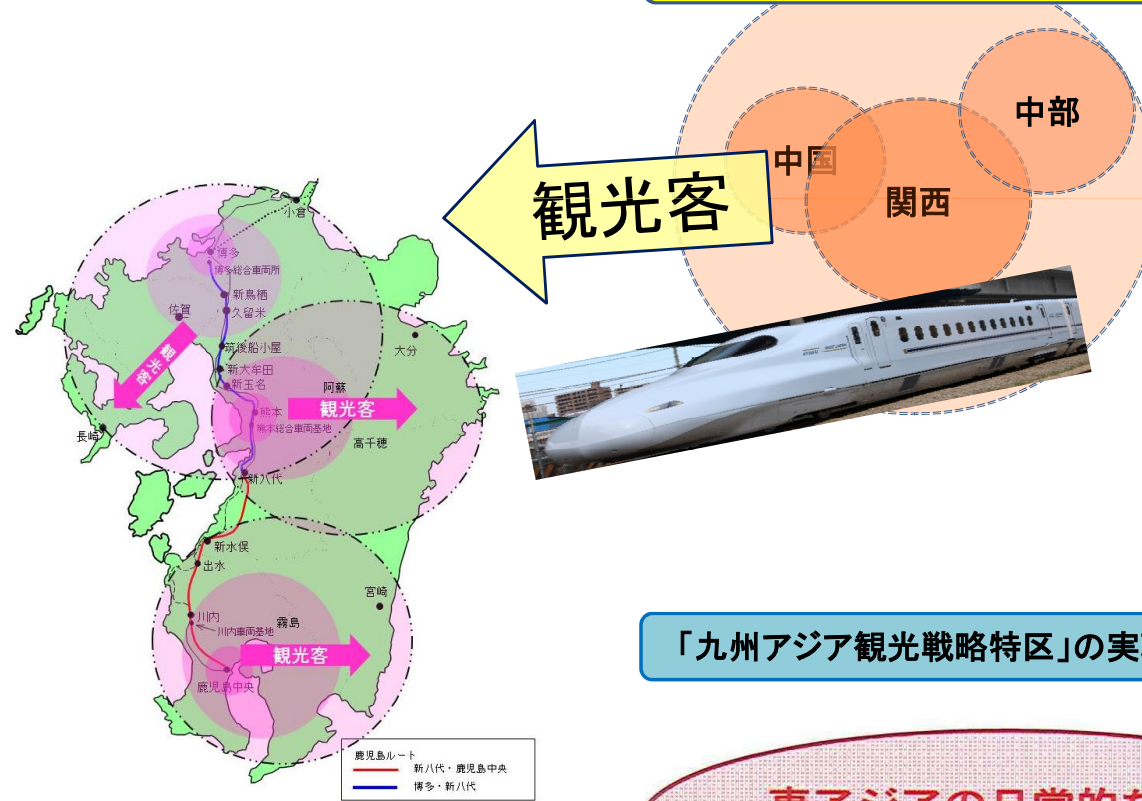


(3)中国の観光を取り巻く状況

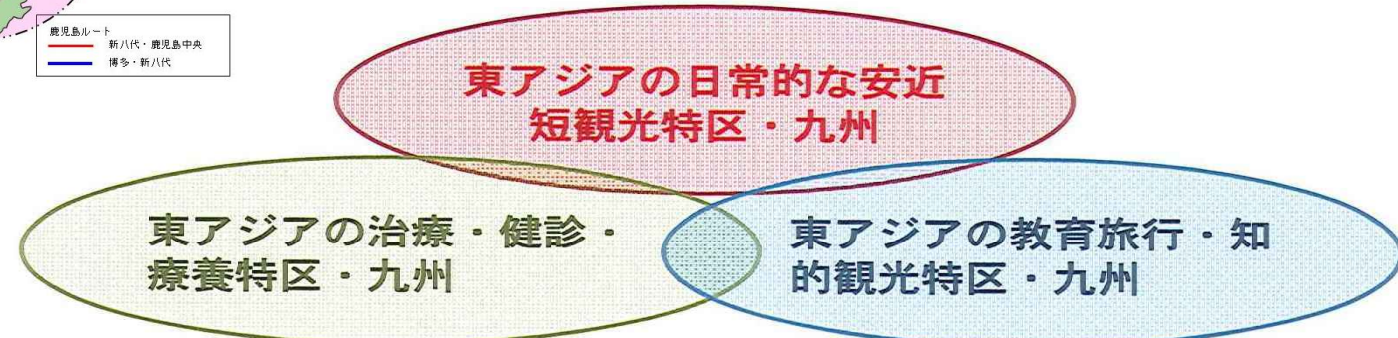
- ①中国個人観光査証(ビザ)の緩和 H22.7.1
- ・ビザ発給対象: 約160万世帯 → 約1600万世帯
 - ・取扱旅行者: 48社 → 290社
 - ・取扱公館: 3ヶ所 → 7ヶ所
- ②外航クルーズ船の寄港の増



九州新幹線鹿児島ルート全線開業(H23春)



「九州アジア観光戦略特区」の実現に必要な取組・事業



- 入出国手続きの迅速化・簡素化**
 - ◆九州の各空港・港湾でのCIQ体制の充実・増強
 - ◆博多港・福岡空港・北九州空港等でのCIQ開庁時間の拡大
 - ◆外国人観光客の条件付きマルチビザ化・ノービザ化
 - ◆九州の空港におけるLCCの誘致促進
- 国際クルーズ船に対する総合的な施策展開**
 - ◆クルーズ船に係るCIQの充実・増強
 - ◆クルーズ船に係る入出国手続きの簡素化
 - ◆「仮上陸許可」の行動範囲の緩和
 - ◆臨港地区の建物用途の拡大の許可
 - ◆日本領海内でカジノ利用の許可
 - ◆九州の港湾での国際クルーズ船の母港化
- アジア人の治療・健診・療養ツーリズムの促進**
 - ◆海外の患者が来日しやすい環境整備
 - ◆患者の家族や介護人が来日しやすい環境整備
 - ◆海外の医療機関との連携に対する支援
 - ◆国際的な病院品質の認証機関JCIへの認定支援
 - ◆医療事故発生時の保証制度の確立
 - ◆外国人医師の医療行為の認可
 - ◆英語での看護師国家試験の認可
 - ◆海外向け医療広告の緩和
 - ◆専門通訳の育成支援
- アジア人観光客が安心・安全に旅行できる環境整備**
 - ◆コールセンター設置への財政的支援
 - ◆ホワイトスペースの活用
 - ◆第3種旅行業者が造成できる企画旅行の催行区域の拡大
- アジア富裕層のエリア限定ノービザ化、プライベート旅行促進**
 - ◆ハウスステイ限定での中国人ノービザ化
 - ◆離島でのノービザ化
 - ◆離島での中国人観光客の運転免許許可に対する特例
 - ◆外国人富裕層のコンドミニアム取得に対する特例
 - ◆ビジネスジェット(プライベートジェット)の誘致促進
- 国際教育旅行の受入態勢の整備と支援**
 - ◆国際交流活動の授業単位認定
 - ◆国際交流活動に配慮した柔軟な休日設定への支持
 - ◆「キャンパス・アジア」の重点地域化
 - ◆過疎地域における民泊施設の建築等の規制緩和

※1 特区の各事業を効果的に推進するため、取り組む事業によっては核となるべき拠点とそれらを有機的に結び観光クラスターのネットワークを構築し、

第3次九州観光戦略の概要(施策体系)

戦略Ⅰ 九州の魅力を磨きブランド化する戦略	戦略Ⅱ 国内大都市圏などからの誘客戦略	戦略Ⅲ 海外からの誘客戦略
<p>1 観光人材の育成・活用</p> <p>1)観光人材の育成支援 2)観光ボランティアガイド等の育成支援 3)先進的な観光人材のネットワーク化と活用</p> <p>2 観光インフラ等の整備</p> <p>4)観光案内所の整備支援 【戦略期間中の検討項目】 ・九州観光案内所への整備支援</p> <p>5)外国人観光客の受け入れ体制の整備 ・CIQの簡素化、迅速化促進 ・機構ホームページの充実 【戦略期間中の検討項目】(「九州アジア観光戦略特区」実現に向けた検討項目) ・コールセンターの整備支援 ・両替所・免税店の整備支援 ・多国語表示整備支援 ・通訳ガイド研修の実施 ・九州観光案内所への整備支援</p> <p>3 魅力ある観光地の形成</p> <p>6)地域独自の魅力を生かした商品等の創出支援 ・「九州さるく」の利用促進 【戦略期間中の検討項目】 ・観光圏の整備支援</p> <p>7)既存のイベント等の活用</p> <p>8)県境を越えた魅力ある観光ルートの形成・促進 (二次交通の充実促進) ・なないろ九州バスの運行支援 【戦略期間中の検討項目】 ・公共交通の連携強化支援 ・レンタカー、観光タクシー等への支援</p> <p>4 観光振興のための環境整備</p> <p>9)九州の観光の質の向上を示す「観光客満足度調査」の検討・実施</p> <p>10)国の制度・施策の活用・連携と要望 ・CIQの簡素化、迅速化促進(再掲) 【戦略期間中の検討事項】(「九州アジア観光戦略特区」の検討項目) ・特区の施策活用 ・有給休暇の取得促進</p> <p>11)観光に関する統計の活用</p> <p>12)会員や関係機関・組織との連携強化</p>	<p>1 プロモーション活動の強化</p> <p><旅行商品の造成及び販売の促進に関する支援> 13)旅行商品の造成・販売支援</p> <p>14)修学(教育)旅行の誘致</p> <p><交通モードに着目した入り込み促進> 15)航空利用客</p> <p>16)鉄道利用客</p> <p>17)自動車利用客</p> <p><クローズドマーケットへのプロモーション> 18)百貨店等との連携強化</p> <p>2 情報発信の強化</p> <p>19)WEBの活用 ・機構HPのコンテンツ等の拡充(躍動感ある動画の導入など) ・ブログやツイッターなどの活用 ・モバイルデバイスを利用した情報発信などの検討</p> <p>20)PR媒体の制作</p> <p>21)広告出稿</p> <p>22)取材協力</p> <p>3 プレゼンテーション活動の強化</p> <p>23)各種イベントの開催または出展</p> <p>24)情報発信拠点の確保</p> <p>25)市場調査の実施</p> <p>26)キャンペーンの実施</p>	<p>1 国や各県との連携</p> <p>27)九州運輸局と連携した事業の推進 28)各県海外誘致事業と連携した事業の推進</p> <p>2 海外でのPR</p> <p>29)PR用媒体のレベルアップ ・訴求効果の高いポスターやパンフレット等の作成 ・現地マスメディアを活用したPRの推進</p> <p>30)旅行博等への積極的な参加 ・現地旅行博等への出展による九州の認知度の向上</p> <p>31)海外の関係機関等との連携 ・各県海外事務所、JNTO、在外公館(大使館、領事館等)、CLAIR、JETROなど関係機関と連携したプロモーションの展開</p> <p>3 各国・地域の市場特性に応じた誘客</p> <p>32)中国からの誘客 ・九州の認知度の向上 ・航空会社・船会社との連携によるプロモーションの展開 ・意欲的な旅行会社等と連携した観光ルートの開発 ・ゴールデンルートからの誘客促進</p> <p>33)韓国からの誘客 ・FIT対策の強化 ・より詳細な観光情報の発信 ・トレッキング等SITへの対応の強化</p> <p>34)台湾からの誘客 ・航空会社や旅行会社と連携したプロモーションの展開 ・FIT対策の強化 ・九州の認知度の向上</p> <p>35)その他の国からの誘客 ・航空会社や旅行会社と連携したプロモーションの展開 ・FIT対策の強化 ・九州の認知度の向上</p> <p>36)教育旅行の誘致</p> <p>4 関係機関と連携した定期路線等の開発・増便やクルーズ船の就航促進</p> <p>37)国や自治体の航空・港湾関係部門との連携による活動の展開</p>

凡例: ピンク→主に中国人観光対策
黄色→主に九州新幹線開業対策

第3次九州観光戦略の誘客目標について

※数値
(延べ宿
泊者数)
について
は、全て
確定値を
活用

目標設定にあたって

- 第3次観光戦略の目標数値は、第2次戦略と同様、国土交通省の「宿泊旅行統計調査」により把握できる九州7県における延べ宿泊者数と法務省の「外国人の出入国者数調査」により把握できる入国外国人数とする。
- また、九州観光の質の向上を図るための独自の評価指標として「九州の来訪者満足度調査(仮称)」の定期的実施を検討する。

目標の設定

1. 国内 延べ宿泊者数

九州での延べ宿泊者数を33,700,000人泊とする

○背景・考え方

●九州の延べ宿泊者数は、2007年(H19)の3,071万人泊に対し、2009年(H21)は、リーマンショックや新型インフルエンザ等の外的要因により、3,002万人泊まで減少。

●しかし、近時(2010年1月~3月)の数値の向上や、さらには、九州新幹線鹿児島ルート全線開業などのプラス要因が見込まれることから、2013年(H25)の延べ宿泊者数については、2007年から2009年にかけての減少分(年1.14%)を回復する以上の年率(年3.00%)を目指した目標値とする。

2. 海外

①入国外国人数

九州への入国外国人数を1,500,000人とする

○背景・考え方

●九州への入国外国人については、大半を占めてきた韓国からの入国の大幅な減から、最も多かった2007年と比べると、32.9万人(35.5%)の減少。

●しかし、中国からの入国については確実に増加してきており、ビザの緩和等からさらに増加が見込まれること、また近時の入国者数が増えていることなどから、国が2013年の目標としている1500万人の10%、150万人を目標値とする。

②九州での外国人の延べ宿泊者数

九州での外国人の延べ宿泊者数を2,200,000人泊とする

○背景・考え方

●九州での外国人の延べ宿泊者数は、2007年の200.9万人泊から、2009年は109.2万人泊に大きく減少。

●しかし、中国からの入国者等の増が見込まれることから、2007年の水準まで回復させることはもちろん、国内の目標である延べ宿泊者の2007年からの伸び率(約10%)と同様と見込み、220万人泊を目標値とする。

○九州各県の延べ宿泊者数と2013年目標値

	2007年	2008年	2009年	2013年(H25)目標	備考
福岡県	7,902,150	7,998,650	8,484,690		
佐賀県	2,186,860	1,986,910	1,911,020		
長崎県	4,035,480	3,984,570	3,964,870		
熊本県	4,940,480	4,850,980	4,785,200		
大分県	4,423,090	4,282,150	3,943,160		
宮崎県	2,535,240	2,585,300	2,388,350		
鹿児島県	4,693,620	4,863,540	4,543,570		
九州計	30,716,920	30,552,100	30,020,860	33,700,000	

【国交省】宿泊旅行統計調査

2007年→2009年
減少率 -1.14%/年

2009年→2013年
失われた増加率 +1.14%/年

○近時(2010年1月~3月)の延べ宿泊者数(九州7県合計)
7,695千人(前年7,416千人、3.76%増)
+新幹線開通効果を見込み
=年率3%の増加を見込む

○九州への入国外国人客数と2013年目標値

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2013年(H25)目標
九州への入国外国人数(万人)	63.1万人	79.1万人	92.7万人	87万人	59.8万人	150.0万人
対前年比 (%)		11.9%	25.3%	17.2%	△6.1%	△31.3%
参考:全国の外国人入国者数	745万人	810.7万人	915.2万人	914.6万人	758.1万人	1,500万人
九州の対全国比	8.5%	9.8%	10.1%	9.5%	7.9%	10.0%

【法務省】出入国管理統計

○観光庁の新たな誘客目標 国の10%を目標とする

	2010年	2013年	2016年	2019年	将来
	1000万人	1500万人	2000万人	2500万人	3000万人

○近時(2010年1月~3月)の九州への入国外国人数

233千人(前年136千人、71%増)

○九州での外国人の延べ宿泊者数と2013年目標値

	2007年	2008年	2009年	2013年(H25)目標	備考
福岡県	579,670	527,420	374,830		
佐賀県	48,950	44,550	27,060		
長崎県	451,070	395,790	216,700		
熊本県	407,310	369,020	190,810		
大分県	326,380	316,440	172,500		
宮崎県	90,110	82,780	42,930		
鹿児島県	105,710	117,470	67,540		
九州計	2,009,200	1,853,470	1,092,380	2,200,000	

【国交省】宿泊旅行統計調査

2007年→2009年
2年間で約93万人泊の減少

2009年→2013年

減少した分を4年で取り戻すことは
もちろん2007年の10%増を目指す。

○近時(2010年1月~3月)の延べ宿泊者数(九州7県外国人合計)

447千人(前年265千人 68%増)